

広報 あいかわ

わたくしたちの町

人口(男).....	4,692人
(女).....	5,075人
合計.....	9,767人
1月中の転入	23人
転出	21人
世帯数.....	2,209

(1月31日住民登録人口調)

豪雪と闘う

総出の除雪大作戦

異常豪雪に対策本部を設置

昨年十二月初めから、降り続いた雪は、秋田地方気象台はじまって以来という記録的な豪雪になり、我々の生活をスッカリ狂わし脅かしてまいりました。このため、町では、立町以来はじめての豪雪対策本部を一月役場内に設置降ろしきる雪に対処してきました。

記録的な豪雪は、町民のペースをスッカリ狂わした感じで、住民の足止めはもちろん、バスダイヤも完全にマヒ状態にし、通勤通学者の足を大幅に乱しました。連日連夜の降雪に、町の除雪車はフル回転、朝早く

このため、町では「豪雪対策本部」を設けて、全職員に異例の非常事態を宣言、全力を挙げて豪雪に対処することになり、民生対策、保健衛生対策、道路除雪、文教対策、広報対策の各部門を設備するとともに、全職員を配置し、本来の職務



朝早くからシヨベルローダーもフルに活躍

から懸命に除雪作業をすすめるが、ドカ雪はやむことを知らず、各家々の軒下までうず高く積もり、毎日が雪おろし、除雪と雪との闘いで明けくれ、自然の猛威に脅かし続けられました。

生委員を通じ指導し、これらの世帯を常時監視する。②保育園児に対し、交通安全、危険ケ所の立入禁止、火災予防等の教育を徹底する。③交通安全指導車を利用し、事故防止に努める。④火の用心を呼びかけ非常の際の避難口を設けさせるとともに、消防水路、防火

善意の雪おろし

増沢の小笠原さん

明治以来の豪雪は、毎日雪との闘いの明けくれで我々の生活をスッカリくるわし、脅かし続けておりますが、この中で、小笠原勝郎(増沢、塗装業)さんとその従業員の方々は、町内の生活保護世帯、身寄りのない一人暮らしの老人世帯の雪おろしを率先して、かつて、各家庭からは大変よろこばれております。

小笠原さんは、この豪雪によって、各地で家屋の倒壊、破損など危険な状態を生じていること知り、町内でも出稼ぎ家庭、老人世帯と一人暮らしでは手におえない状態に困っている家庭を見出すことが出来ず、自分の経営している塗装業を休み、八人の従業員ともども



寒風をつき、善意の雪おろし(木戸石部落)

水そう、消火栓附近の除雪を行い、消防機械器具の点検整備など、有事に備える。⑤羽根山、李岱、三里地内など、なだれ危険地域の警戒。保健衛生①②往診車の通行不能地域も考え救護体制を整える。②ゴミ収集車の定期運行の確保

雪の状態を見ながら、必要があればどしどし行なっていくたいと語っておりまし。青年のパワーを発揮

スノー縦断作戦



雪の状態を見ながら、必要があればどしどし行なっていくたいと語っておりまし。

大雪には青年もひと役かおうと、去る二月二十四日スノー縦断作戦と名をうって、町内青年会員による除雪作業が行われました。

これは、青年会活動の一環として社会参加による奉仕活動として取り組んだもので、合川診療所の避難口防火水そう、保育園、交通標識を重点におこなったものです。

合川橋を除雪

膚につきささるような、川風をまともにうけながら、アノラックに身を固め、ヒタイに汗してもくもくと雪のとり寄せ作業を行う中学生。

これは、通学路にあたる合川橋が積雪のため、車が通れば橋いっばいにふさがり、歩行者は危険な状態でおそれるおそれる渡らなければならぬことから、放課後十三名の有志で自主活動として行ったものです。

川橋は、歩道も完全に確保され、通勤通学者の人達から安心して歩行出来ること大変喜ばれております。

部落ぐるみで除雪デー

異常豪雪には、住民の力を総結集して対処しようと、去る二月三日、除雪デーを設け部落ぐるみで雪おろしや、排雪作業を行いました。

この日は、車道確保、待避所の設置を重点に、毎戸より一人の努力を頼み、部落内のグランプ・トラックはすべて借上げ、総出動、道路両側に高く積みあげられた雪、消火栓をおおった雪・小路をふさいだ雪・通学路の確保と、雪との闘いにおおわらわ、スコッ

いでも除雪デーを設けるなどとして、町民総ぐるみで雪との闘いをおこなってきました。これにより、当町では幸いに人身事故、建築物の倒壊などの被害発生は全く非常に喜ぶべきかと思われま。

融雪災害防止に努めましょう

異常降雪に伴う雪害防止については、町としてももちろんのこと、各部落にお

公共事業拡張に伴い、関係土地所有者から町が買収した、つぶれ地の登記事務処理は、昨年から専任の職

員が従事して住民の要望に対処しますから、登記申請に必要な書類(印鑑証明書、承諾書、相続関係)について、所有者の協力が必要です。すのでよろしくお願ひします。

特別用地室よりのお知らせ

贈与税は、個人から財産をもらった人にかかる税金です。

贈与税は、個人から財産をもらった人にかかる税金です。一、財産をあげましょう。もらいましょうと言う約束によって財産をもらったとき、二、親の所有していた土地や建物や株式などを子供の名義にかえた時三、土地の購入や建物の新築に際して、親から資金の援助を受けたとき「ある時払いの催促なし」の借金をしたとき四、財産をいじめるしく低い価額で譲り受けたときなどにあります。贈与税は、一年間にもらった財産の価額の合計額が四〇万円をこえるときにあります。

贈与税は、個人から財産をもらった人にかかる税金です。一、財産をあげましょう。もらいましょうと言う約束によって財産をもらったとき、二、親の所有していた土地や建物や株式などを子供の名義にかえた時三、土地の購入や建物の新築に際して、親から資金の援助を受けたとき「ある時払いの催促なし」の借金をしたとき四、財産をいじめるしく低い価額で譲り受けたときなどにあります。贈与税は、一年間にもらった財産の価額の合計額が四〇万円をこえるときにあります。

道路は広く、美しく、正しく、使いましょう

道路にお店の看板などをかけるときは、許可がいります。

道路にお店の看板などをかけるときは、許可がいります。

道路にお店の看板などをかけるときは、許可がいります。

熱心な討議を展開

第九回 合川町青年婦人議会

郷土合川の現状を学習し合川の未来を求め、青年婦人の要望、要求を町政に反映させることを目的に、第九回合川町青年婦人議会は、二月十日合川町公民館を会場に八十人の青年婦人議員が出席して行なわれまし。

この青年婦人議会は、町内の青年・婦人議員が議員となつて、畠山町長をはじめとする町三役、各課長の町当局に、一般質問、委員会質問を行なうもので、議会の構成も本会議・委員会と本物の町議会形式と同じ仕組みになっています。



一般質問する木村さん

五議員による一般質問に入りました。質問者と内容は、次のとおりです。

- ◇三浦一英(三木田)
- ①大野台工業開発とビジョン
- ②町民のレクリエーションについて
- ③町長の政治姿勢について
- ④広域圏の問題

- ◇吉田重春(川井)
- ①圃場整備事業の反省
- ②

- ◇高橋ミエ(八幡岳)
- ①乳児保育について
- ②診療所夜間往診の体制について
- ③大野台自然保護について
- ④生活安定対策本部のあり方について

午後からは、委員会にわかれ、毎日の生活の中から出た問題点を中心に質疑し、実態を学習するとともに、要求もかかるとともに、一問一答をくり返し、熱心な討議が行なわれ、最後は委員会報告をうけ、畠山町長が「年々ムダな質問はなくな

二次構造改善事業と一貫作業体系 ③道城と川井パイパス ④合川町の農業と大野台開発

◇木村英子(李岱)

- ①町民体育館新設とステーション付設の構想
- ②生活技術講座と町民講座の利用方法
- ③広報無線の効率的利用

- ◇畠山トモ子(李岱)
- ①税金課税の仕組みと適正な課税の仕方
- ②李岱のバypass問題
- ③スキー場の問題
- ④マイクロバスの購入と利用方法について

三月は卒業・進学・就職と少年達にとっては、大きな喜びであると同時に、反面曲角にたたされる時期であります。

学年末の少年非行の防止

森吉警察署

特に中学生や高校生達は進学試験が終り、その解放感と心理的な動揺から非行にはしりやすい時期でもあります。

これまでも進学や就職に失敗した少年たちは、進路の希望を失い、劣等感をもち、そのため方向を見失って、家出・転落・その他色々の非行にはしる傾向にあるので、警察ではこの時期に力を入れて指導にあたっており、保護者の協力をお願いしております。

なかも、今年の秋には不況の嵐が、またおそってくる予感がされます。消費者は物不足、買占めというマスコミには左右されない、りこうな消費者にならなければ、悪徳業者の思うツボになるのもう少し冷静に判断できる習慣を身につけてほしい。

物価問題を学習

経済とくらしの講演会

合川町PTA連絡協議会で、かねてから企画しておりました経済とくらしの講演は、二月二十三日公民館を会場に行なわれました。これは、最近の物不足、物価高騰と一連の物価問題について、私たちの生活は私たちが守らなければならぬという意識に立つわけ

このため、県内ジャーナリスト界でも第一人者である、秋田魁新報編集局長の森可昭氏をお招き、「最近の経済動向とくらし」と題しておこなわれたもので、講演は新聞・テレビ等では、私たちの耳にはできないような、内部の問題について核心をつき話されまし

た。なかでも、今年の秋には不況の嵐が、またおそってくる予感がされます。消費者は物不足、買占めというマスコミには左右されない、りこうな消費者にならなければ、悪徳業者の思うツボになるのもう少し冷静に判断できる習慣を身につけてほしい。

絶対にならないというようにきめつけたいこと、三、行き先、友人関係、帰宅時間に注意すること、四、非行のはじまりは、とくに夜間、他人の家へ理

だが、もっとつつこんだ学習をする必要があります。しかし、今日の要望などは、今後の町政に出来るだけ反映させようとい合川町を作る」ことを約束し全日程を終了、有意義な一日を過ごしました。

由がないのに、宿泊することからはじまるので、遅くとも午後九時までは必ず帰すようにすること、五、中学生や高校生の一部には、法律で禁じられている酒類やタバコを飲みパチンコ店に入内りして補導されている少年が多くなっています。

また、謝恩会やお別れパーティーに名をかりて、酒・タバコ・男女間の不良行為等を行なうおそれがありますので、皆んなで注意し合い非行防止に努めましょう。

農業者年金は、農業者である皆さんの年金で、皆さんの老後の生活の安定と農業経営の近代化の促進を図るために創立されたもので、すでに一〇六万人の農業者の方々が加入しております。

すでに年金に加入している方々は、老後の保障が約束され、安心して農業経営にいらしていただけることと思っております。

加入方法は、農協または農業委員会が事務取扱っておりますので相談のうえ、手続きをすませて下さい。

ありがとうございます

善意のご寄付

次の方々から、香典返しにかえて尊い浄財の寄付をいただきました。町の社会福祉事業の基金に繰り入れ有効に役立たせることにいたしました。

- 紙上を通じて厚くお礼申し上げます。
- (社会福祉法人・合川町社会福祉協議会)
- 鈴木正一(鎌沢)
- 父・利助さんの香典返しにかえて一万円
- 工藤一博(下杉)
- 父・彦蔵さんの香典返しにかえて二万円
- 高橋昭一(美栄)
- 父・市五郎さんの香典返しにかえて一万円
- 山田ハル(木戸石)
- 夫・政吉さんの香典返しにかえて一万円
- 斎藤栄一(新田目)
- 母・キクエさんの香典返しにかえて一万円
- 鈴木常雄(福田)
- 父・常三郎さんの香典返しにかえて五千元
- 福岡久三郎(三里)
- 妻・フヨさんの香典返しにかえて一万五千元

農業者年金に加入しましょう!!

工藤亨職・弘職二男(木戸石)、成田正和・文夫二男(李岱)、木村かおる・幸三長女(李岱)、工藤円義弘二女(上杉)、佐藤勉昭太郎二男(川井)、長浜正美・勇長男(上杉)、松岡芳之・好夫長男(駅前)

桜田ひとみ・修一長女(上杉)、後藤美弥子・金夫三女(下杉)、高橋新・規幸長男(川井)、松橋順子・三郎長女(三里)、成田農道胤長男(李岱)、三浦郁子・敬一郎長女(三木田)

後藤匠(たくみ)・利昭長男(下杉)、金田知直・勇二男(摩当)、佐藤祐美子・進二女(駅前)、北林茂春・昭作長男(三木田)、桜田真奈美・義明二女(駅前)、森岡勝・耕一郎長男(道城)、米倉るり・修治二女(駅前)

●謹んでごめいふくをお折り申し上げます。

桜田ナヨ・義明母(駅前)、藤田シキ・トク母(八幡岳)、佐藤鶴治・本人(木戸石)、金田長助・本人(西根田)

ありがとうございます

慶弔だより

自十一月三十日 至一月二十五日

おめでとうご健康をお祈りいたします。

藤田さん、日本青年海外協力隊・農業土木隊員として、全国数百名におよぶ応募者の中から、書類審査・面接・試験をパスし、十一名の仲間と一緒に、昭和四十六年二月から四十八年二月までの二年間、インドシナ半島中央部の王国であるラオスの首都ビエンチェンのビエンチェン平野開発庁に配属されたもの。

仕事は日本政府の援助で行なわれている、八百ヘクタールにおよぶ、開田プロジェクトの中において、チームの一員としてラオス政府の技術者と

ともに、農業技術の指導および協力を行なつてきたものです。

ラオス国は停戦中であり、平和な国に返つたというが、うらに廻ればまだ戦火のあとが消えず、大変な毎日であったようです。

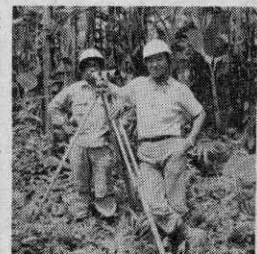
現場は、川と並行したジャンクル地帯が多く、仕事はかどらず毎日が自分との闘いであつたか。それでも、大陸の隅で自分なりの目的をもって働いていることが、不幸な戦争から生れた難民を救うことになると言う信念が生きていたといふ。

このプロジェクトを通じて得たことは、「アジア人の唯一の友はアジア人であること。そして世界をつくるのは我々、若い力であること」であると胸をはって語ってくれました。

高橋昭二氏の長男・昭和二十五年生れ、鷹巣農林高校卒、独身の好漢。写真IIラオス政府の技術員と記念撮影

鈴木シケ・市蔵母(鎌沢)、小林房吉・本人(李岱)、藤島為吉・本人(木戸石)、保坂キン・高雄妻(新田目)、関喜之助・本人(上杉)、土濃塚公子・義夫長女(芹沢)、桜田ひとみ・修一長女(上杉)、金田松之助・本人(羽根山)、鈴木利助・本人(鎌沢)、福岡フヨ・久三郎妻(三里)、鈴木常三郎・本人(福田)、高橋市五郎・本人(美栄)、山田政助・本人(木戸石)、工藤彦蔵・彦治長男(下杉)、成田キノ・吉治母(大内沢)、斎藤キクエ・本人(新田目)

藤田 則雄さん 八幡岳部落(24歳)



藤田 則雄さん

戦火のラオスで技術指導

および協力を行なつてきたものです。ラオス国は停戦中であり、平和な国に返つたというが、うらに廻ればまだ戦火のあとが消えず、大変な毎日であったようです。